

ブルーノ・タウトが ベルリン郊外に設計した住宅団地

田中 辰明

柚本 玲

お茶の水女子大学 名誉教授(生活環境教育研究センター) お茶の水女子大学 田中辰明研究室

はじめに

本誌でブルーノ・タウトが主にベルリンで設計した1920年代の集合住宅についてベルリンの地区別に紹介を行ってきた。タウトは1920年代にベルリンで12,000戸の集合住宅を設計している。第二次世界大戦で破壊されてしまった物件も多いが、残っている物件、戦前の姿に復旧された物件も多い。筆者は残っている物件の殆どをベルリンで調査し、それを順次本誌で紹介してきた。

ブルーノ・タウトは色彩の建築家と言われた。カラーで紹介されると良いのであるが、本誌はカラー印刷ではない。カラーでタウトの作品をご覧になりたい方は、ブログ(URL:<http://tanakatatsuaki.seesaa.net/>)でご覧頂ける。

1. フラム教授邸宅

本誌平成21年11月号でライベダンツ邸(Villa Reibedanz)の紹介を行った。主に庶民のための集合住宅設計が主であったブルーノ・タウトが、このような個人の大家宅を設計していたというのも新しい発見であった。これは洗濯業で財をなしたエルヴィン・ライベダンツ氏(Erwin Reibedanz)が、タウト兄弟(ブルーノと弟マックス Max Taut)と共に仕事を行ったフランツ・ホフマン(Franz Hoffmann)と義兄弟であったということにもよる。またライベダンツ氏がタウトに自邸の設計を依頼したのは、それより前の1910年~1911年に工事が行われたフラム氏の邸宅があり、これをライベダンツ氏が気に入ったからだとの説がある。

フラム邸(Villa Flamm)は、ベルリン西郊の高級住宅地のニコラスゼー(Nikolassee)にあった。発注者はシャルロテンブルグ工科大学(現ベルリン工科大学)で船舶工学の教授であったオズヴァルト・フラム氏(Oswald

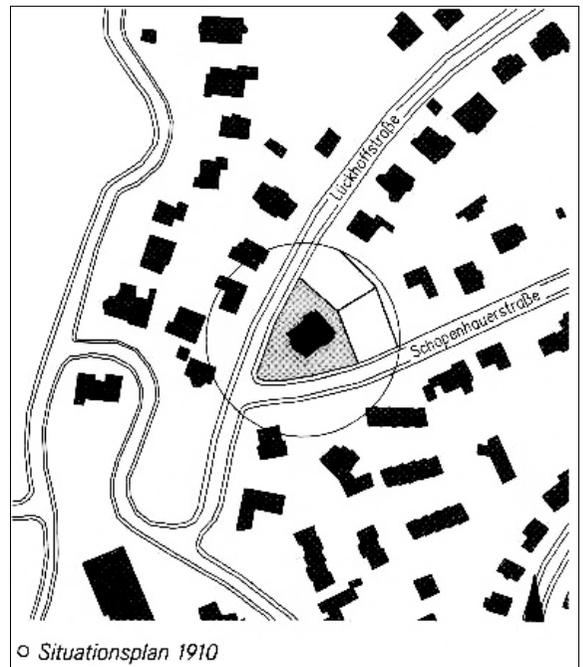


図1 フラム邸敷地図¹⁾

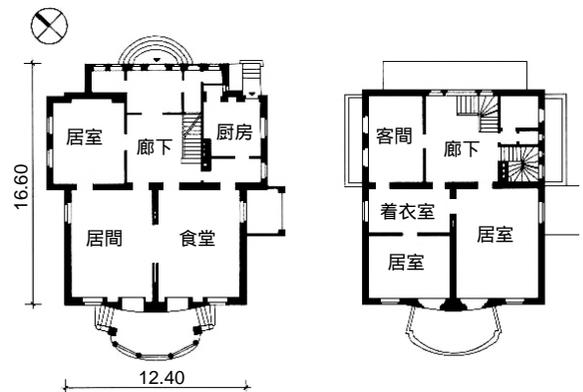


図2 フラム邸1, 2階平面図¹⁾

Flamm)であった。フラム邸の敷地図を図1、当時の1階と2階の平面図を図2に示す。敷地はリュックホーフ通り(Lückhofstr.)とショッペンハウザー通り



写真1 旧フラム邸敷地後に建設された集合住宅

(Schopenhauerstr.)の交点のあたりに建っていた。ペランダのある2階建ての住宅で、新古典主義の様式であり、ライベダッツ邸と類似する。この建物は第二次世界大戦でも被災せず残ったが、1970年代に時代にそぐわなくなったのが大改築が行われ、現在ではこの土地に集合住宅が建設されている。この集合住宅を写真1に示す。屋根裏部屋を含めて3階建て集合住宅が森の中に静かに建っている。筆者らが調査に出かけた2009年10月中旬は雨の多い天気で、丁度苺の発生に都合が良い気候であるのか、多数の苺が敷地に見られた。

2. ライベダッツ蒸気洗濯工場

自邸の設計をブルーノ・タウトに依頼したライベダッツ氏は、氏の職業とする蒸気洗濯工場の設計をブルーノ・タウトとフランツ・ホフマンに依頼している。前述のようにフランツ・ホフマンはライベダッツ氏と義兄弟であった。この工場はベルリン市テンペルホーフ地区(Tempelhof)のタイル通り23番地(Teilestr. 23)にある。1911年から1912年にかけて工事が行われ、ベルリンで初めて表現主義の建築として有名になった。敷地が細長く、設計に苦労があったが、平屋建てで道路に近い方に一般家庭用の洗濯工場、奥にホテルや工場から依頼される洗濯工場が配置され、その間に蒸気ボイラ室が設置された。工場の外壁は19世紀に工場建築として主流であった支柱を立て、クリンカータイルで仕上げる方式であった。第二次世界大戦で一部を損傷し、さらに改修が行われ、現在は一部にのみ当時建設された部分が残っている。現在は車の修理工場(特にタイヤの交換を専門とする)となっている。写真2に前面道路に面する側、写真3に車の修理工場となっている状態を示す。ライベダッツ邸の敷地図を図3に示す。



写真2 ライベダッツ洗濯工場が改修され自動車修理工場になっている。



写真3 自動車修理工場内部(旧ライベダッツの洗濯工場)

図3 ライベダッツ洗濯工場敷地図¹⁾

図を図3に示す。

3. ライベダンツ氏の墓石

エルヴィン・ライベダンツ氏は1919年に死去した。その墓石はブルーノ・タウトの弟マックス・タウトにより設計され、ベルリン市ノイケルンの墓地に建てられた。墓地の名称を市営ルイーゼ墓地(Luisestädtische Friedhof)と呼び、所在地はSudstern 12, 10961 Berlinである。この墓石はベルリン・モダニズム(Berliner Moderne)の代表作の一つにあげられている。ドイツの出版物でも所在地が曖昧、もしくは誤っており、筆者もなかなか発見できずにいたが、ベルリン市の墓地管理局で調べ、やっと正しい所在地をつかんだ次第である。

ドイツの住所は日本と違い分かりやすく、タクシーの運転手に住所を告げるだけで、間違いなくその場所に届けてくれる。これは全ての道に名前が付けられており、住宅の番号が規則正しく付いているからである。しかし墓地は住宅ではないので、この番号が無い。しかも、大規模な墓地であると、墓地内に入ってから探すのが大変困難である。筆者も墓地にたどり着き、ライベダンツ氏なら有名な方だから分かるであろうと、居合わせた墓堀職人に聞いたが分からなかった。たまたま持ち合わせたライベダンツ氏の墓石の写真を見せると、「ああこれかね、誰の墓か知らんが、これはあるよ、この道を真っ直ぐ行き、道の交わった所を左に曲がりな！その近くだ！」と教えてくれた。良く日本から墓石の写真を持参したものと自分を褒めた。言われた通りに歩くと確かにこの特徴の或る墓石が現われた。しかし持参した写真よりかなり傾いている。建設はライベダンツ氏の亡くなった1919年で、当初墓石自体は青緑、一部は濃紺に、そして頭部の星と星に繋がる鳥の尾に見える部分は金色に着色されていたそうである。しかし墓地管理事務所から派手すぎるとしてクレームがつき、色彩は洗い流されたそうである。時代と共に墓石自体もやや劣化してきていて、かつ地盤のせいか傾きも始まっている。エルヴィン・ライベダンツの名前も墓石の下部にあったそうだが、現在ではこれも土中に埋没してしまい、誰の墓かわからない状態になっている。従って墓地の入り口で筆者が「ライベダンツ氏の墓は何処にあるのでしょうか？」と墓堀職人に聞いても答えてもらえなかった事に納得がいった次第である。

マックス・タウト設計によるライベダンツ氏の墓石を写真4、写真5に示す。この墓石のデザインはブルーノ・



写真4 ライベダンツ氏の墓石、十字架が刻まれている。(マックス・タウト設計)



写真5 ライベダンツ氏の墓石、名前も土の中に埋まり、墓石自体もかなり傾斜している。元は金色に着色されていた鳥の羽の模様も見える。

タウトがマクデブルグ(Magdeburg)で発行していた“Flücht(曙光)”にも紹介されている。

4. アイヒヴァルデのクーリエ社社宅団地

ベルリンのドイツ交通連盟(Der deutsche verkehrsbund zu Berlin)の出版局であるクーリエ社(Courier)の社員や労働者のための社宅で、所在地はベルリン市郊外のアイヒヴァルデ(Eichwalde, Landkreis Dahme-Spreewald, Waldstraße 129-145)である。合計36世帯の住宅があるが、16戸の戸建住宅と、20戸分の集合住宅からなる。アイヒヴァルデの社宅団地の敷地図を図4に示す。1923年から1926年の間に2期に分かれて工事が行われた。切り妻屋根と寄棟屋根の住宅があり、当時としては珍しくすべての住戸に浴室とバルコニーが設けられた。ファルケン

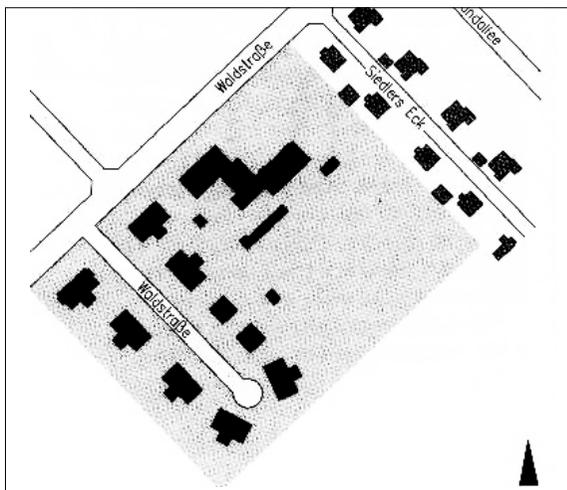


図4 アイヒヴァルデの社宅敷地図¹⁾



写真6 Waldstrasseにはここよりブルーノ・タウトのジードルングが始まるという看板がある



写真7 アイヒヴァルデの2家族住宅



写真8 アイヒヴァルデのジードルング、袋小路の所に少女の裸像彫刻がある



写真9 現在は屋根に太陽集熱器を設置した住宅もある

ベルクで行ったように田園都市の思想を導入し、住民の共同生活のようなことを試みた。ダーメ・シュプレーヴァルト(Dahme-Spreewald)はベルリン市中央から50km程離れたところであるが、ここまで来ると流石に田園調で、のどかな風景である。

ヴァルト通り(森の道(Waldstraße))の片側にここからブルーノ・タウトのジードルングが始まるという看板があった(写真6)。写真7に2家族住宅を示す。2階の窓がドイツのプレハブ住宅でよく見られるカーブを描いた状態になっているが、ブルーノ・タウトはこのような窓を採用するはずが無く、後世の改修でこうなったのであろう。同じWaldstraße(森の道)の名前で、袋小路になった部分がある。この袋小路の両側もタウトの作品であるが、最近かなり改修工事が行われたらしく、あまりにも近代的である。袋小路の一番奥に車が回転できるようにして少女の裸像の彫刻が建っている。写真8にこの彫刻と背後のタウト設計による住宅を示す。写真9には広い道路のヴァルト通りに面するタウト設計の住宅を示す。ここでは最近のご時勢にもれず、太陽集熱器を屋根に設置していた。ブルーノ・タウトは労働者の住宅を考えるときに緑と通風と日射の取り込みを考える人であった。

太陽集熱器の設置には、タウトも喜んでいるかもしれない。

謝辞 この調査研究を行うに当たり、平成21年度科学研究費補助金(課題番号20700575)の研究助成金を得た。現地ではGerd Sowitzkat氏及びManfred Bojaschewsky氏の多大な協力を得た。記して謝意を表す。

<参考文献>

- 1) Winfried Brenne: Bruno Taut Meister des farbigen Bauens in Berlin: Deutscher Werkbund Berlin e.V. (Hg.) 2005)
- 2) 田中辰明, 柚本玲: ブルーノ・タウトが設計したベルリンに設計した集合住宅: 建築仕上技術: Vol. 35, No. 411(2009/10) p. 54-60
- 3) 田中辰明, 柚本玲: ブルーノ・タウトが設計したベルリン市ノイケルン地区の集合住宅: 建築仕上技術: Vol. 34, No. 410(2009/9) p. 60-66
- 4) 田中辰明: 建築家マックス・タウトの業績と生涯: 建築仕上技術: Vol. 34, No. 400(2008/11) p. 76-81
- 5) 田中辰明, 柚本玲: ブルーノ・タウトが設計したベルリン市ヴァイセンゼー地区の集合住宅: 建築仕上技術: Vol. 34, No. 409(2009/8) p. 60-65
- 6) 田中辰明, 柚本玲: ブルーノ・タウトが設計したベルリン市プレントラウアーベルク地区の集合住宅: 建築仕上技術: Vol. 34, No. 408(2009/7) p. 62-66
- 7) 田中辰明, 柚本玲: ブルーノ・タウト設計による円形住宅「チーズカパー」: 建築仕上技術: Vol. 34, No. 403(2009/2) p. 49-53
- 8) 田中辰明, 平山禎久, 柚本玲: ブルーノ・タウト(Bruno Taut)の作品と建築設備の変遷: 空気調和・衛生学会論文集: No. 136(2008) p. 1-5
- 9) 柚本玲, 平山禎久, 田中辰明: 41646: ブルーノ・タウトが設計した住宅の暖房設備に関する調査研究: 2008年度日本建築学会学術講演会(2008/9) p. 1327-1328
- 10) 田中辰明, 柚本玲: ユネスコの世界文化遺産に指定されたベルリンのブルーノ・タウト設計による住宅団地: 建築仕上技術: Vol. 34, No. 401(2008/12) p. 49-54
- 11) ブルーノ・タウト著, 篠田英雄訳: 日本タウトの日記: 岩波書店(1975)
- 12) ワタリウム美術館編集, Manfred Speidel: ブルーノ・タウト 柱廊宮とユートピア建築: オクタブ(2007/05)
- 13) 水原徳言: Bruno Taut年表: 群馬県工業試験場(1987/6/1)
- 14) Annette Menting Max Taut Das Gesamtwerk DVA: Deutsche Verlags-Anstalt GmbH(2003)
- 15) Manfred Speidel: Ich liebe die japanische Kultur: Gebr. Mann Verlag Berlin(2004)
- 16) Ausstellung der Akademie der Künste vom 29. Juni bis 3. August 1980, Bruno Taut(1880-1938)